

2022年1月21日(金)

東京大学 教授 江崎 浩

コメント

2022年1月21日開催 グリーンイノベーション戦略推進会議 WG

今回、【資料4】P.30「半導体産業と情報通信産業分野」に関する戦略に関するところで、「DXの推進による脱炭素化への貢献が非常に大きく、これを推進する」との方向性が示されたこと、大いに賛同でございます。

「情報処理の効率性＝電力利用の効率性」、「デジタル化＝スマート化」であり、デジタル分野が求める付加価値とカーボンニュートラルで必要な裏表の関係となっている。（デジタル化・DXの省エネ効果は大（クラウド化で8割省エネ達成））

DXの推進・実現のためには、ハードウェアとソフトウェアの両面における「相互接続性の実現」と、そのための「共通のオープンインターフェースの提供」が、特に、今回重要研究開発項目とされたすべての領域における各個別システムの拡大・普及の段階において、極めて重要となると考えます。ソフトウェアの側面はもとより、ハードウェアにおいても相互接続性の実現は、DX、すなわち新しいシステム構造への進化を実現するための障壁を小さくすることに貢献すると考えます。

システム・コンポーネントに関する ソフトウェアとハードウェアの両面での「相互接続性の実現」と「共通のオープンインターフェースの提供」を、重要な技術要件とすること

を提案させて 頂きます。

以上